

- 平成23年3月12日午前4時、東日本大震災が発生した翌朝、「震度6強」の大地震が長野県栄村を襲った。村の97%が何らかの被害を受けたほか、道路等のライフラインの多くが損壊する等、村は甚大な被害を受けたが、東日本大震災や原子力発電所の事故被害の報道が優先され、栄村は「忘れられた被災地」となり、被害についてはあまり取り上げられることがなかった。
- 震災後、2年を経た現在、「震災復興住宅」の入居も始まるなど、復旧が進んでおり、昨年10月には、「栄村震災復興計画」を取りまとめられ、「復旧」から「復興」へ本格的な取り組みが始まっている状況。今回、長野財務事務所が栄村に対しヒアリングを実施し、復興への取り組みと今後の課題等について取りまとめた。

長野県栄村とは

長野県最北の村で、新潟県境に位置し、日本有数の豪雪地帯にある村。「小さくともひかり輝く村」として市町村合併せずに、「自律の村づくりを進める」とし、村と村民が協働して事業に取り組んでいる。



面積:271.51㎡ (92.8%が山林原野)
人口:2,094人 世帯数:818世帯 (H25.1.1現在)
高齢化率:46.5%(H24.10)(県平均26.7%)
産業:1次34.7%、2次17.1%、3次48.2%

(出典:総務省「平成22年国勢調査」等) 出典:国土交通省国土地理院

地震の状況

発生日時 平成23年3月12日(土)午前3時59分
震源 長野県北部地方
規模 マグニチュード6.7 震度 6強
※ 平成23年3月12日 災害救助法・激甚災害指定



被害の状況

- 人的被害 死者3名、軽傷10名
- 建物被害 全壊33棟、半壊169棟、一部損壊486棟、合計694棟



(秋山地区を除く全世帯の97%に何らかの被害)

- ライフライン被害 道路・橋梁の損壊 75路線175ヶ所
 - 農地・農業用施設の被害 田畑・農道・水路など1,137ヶ所
- ※被害総額55億円(住宅を除き)
(参考:村の予算規模 約20億円)

復旧の状況(金額ベースで約90%が復旧)

未復旧は村道2路線及び本年3月末完成の教員住宅のみ

【主な復旧状況】

(住宅の状況)

被災した住宅困難者の定住促進に向けた「震災復興住宅」31戸の建設については、平成24年11月には竣工し、平成25年新春には全て入居済。(総事業費 約6億8900万円)

(農地の災害復旧工事の状況)

国庫災害復旧事業、単独災害復旧事業ともに、昨年中に全て完了。

【復旧が速やかに進んだ要因】

- 住民の自治参画意識が強い、「自律の村」であること。
 - 被災地が局地的であったこともあり、近隣市町村から集中して支援を受けられたこと。
 - 建設業者及び建築資材の調達面も優先的に対応
- ※ 早期の災害査定の実施及び復旧工事のための財源の確保においては、国の支援に感謝

本格復興への取り組み(今後の課題と要望)

栄村震災復興計画(平成24年10月16日決定)

復旧にとどまらない再生・復興のための計画とし、「震災をのりこえ、集落に子供の元気な声が響く村を」を基本目標として方針を策定

栄村からの要望

財政規模の小さな村としては、今後の本格的な復興には多額の予算が必要になることから、国の支援が得られるかが課題。国の特別交付税を財源に設けた復興基金(10億円)の活用策や復興特区も検討するが、特に、集落から復興をしていくため集落が使える補助金、課題である雇用創出のため、起業や村への定住を促すハード、ソフトへの補助金の支援が必要。